



練馬区のプロフィール



誕生

練馬区は、昭和22年8月1日に板橋区から分離独立し、23番目の特別区として誕生しました。

「ねりま」地名の由来

「ねりま」という地名の由来には、

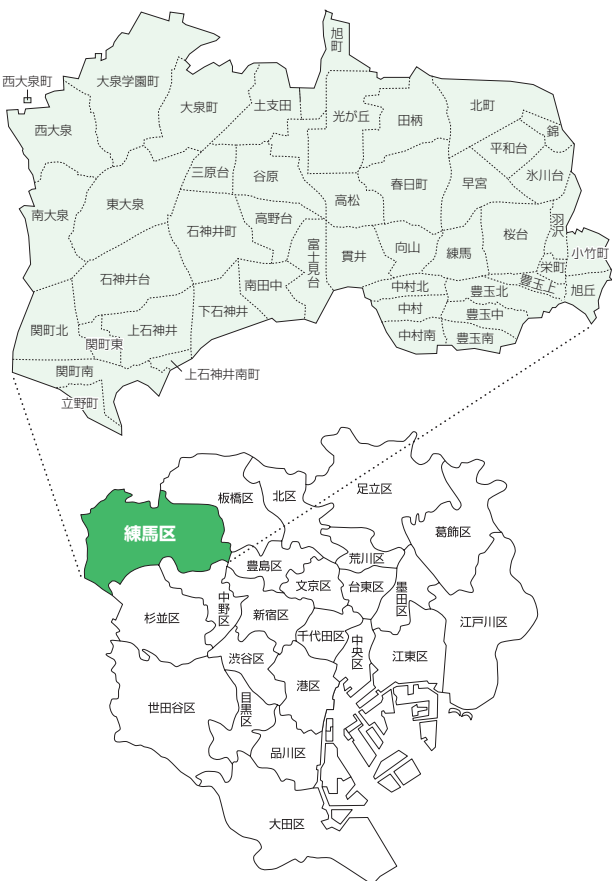
- ・関東ローム層の赤土をねったところを「ねり場」といった。
- ・石神井川流域の低地の奥まったところに沼＝「根沼」が多かった。
- ・奈良時代、武蔵国に「^{のりぬま}乗瀦」という宿駅があった。
- ・中世、豊島氏の家臣に馬術の名人がおり、馬を馴らすことを「ねる」といった。

などの諸説があり、定説はありません。

位置

練馬区は、東京都23区の北西部に位置し、北東から南にかけては板橋区、豊島区、中野区、杉並区に接し、西から南西にかけては西東京市、武蔵野市との境をもち、北は埼玉県の新座市、朝霞市、和光市に接しています。

経・緯度でみると、東経139度33分46秒～139度40分52秒、北緯35度42分43秒～35度46分46秒に位置しています。



地形

練馬区は、ほとんど高低差のないなだらかな地形をしています。地盤高でみると、西側が高く東側へ行くにつれて低くなっています。水準基標によると、関町北四丁目(石神井高校内)では海拔54.02m、羽沢三丁目(開進第四中学校内)では海拔26.01mとなり、平均すると、30～50m程度の起伏の少ない台地状となっています。

面積

練馬区的面積は48.08平方キロメートルで東西約10km、南北約4～7kmのほぼ長方形です。東京都の総面積2,193.96平方キロメートルに対し、練馬区はその約2.2%、23区の総面積627.57平方キロメートルに対し約7.7%に当たり、23区の中では大田区、世田谷区、足立区、江戸川区に次いで5番目の広さです。

人口

練馬区の人口・世帯数は、住民基本台帳によると令和元年8月1日現在、738,016人、376,818世帯です。23区別に見ると、人口は世田谷区の約91万6千人に次いで2番目となります。外国人住民数は、元年8月1日現在20,910人で、区の総人口に占める割合は約2.8%となっています。

練馬区では、目指す将来像を区民の皆様と共有し、区政をさらに前に進めるため、「グランドデザイン構想」を平成30年6月に策定しました。構想では、おおむね10年後から30年後の将来像を、「暮らし」「都市」「区民参加と協働」の3つの分野で示しています。



非核都市練馬区宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。しかし、近年、核軍拡競争は、激化し、世界平和に深刻な脅威をもたらしている。

われわれは、世界最初の被爆国民として、平和憲法の精神に沿って、核兵器の全面禁止と軍縮の推進について積極的な役割を果たすべきである。

わが練馬区および練馬区民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を生かし、また、日本の国是である非核三原則（造らず、持たず、持ち込ませず）が完全に実施されることを願い、わが練馬区の区域内に、いかなる国のいかなる核兵器も、製造、配備、貯蔵することはもとより、飛来、通過することをも拒否する。

練馬区および練馬区民は、さらに他の自治体とも協力し、核兵器の廃絶と軍縮にむけて努力することを宣言する。

昭和58年10月3日
練馬区

交通安全都市練馬区宣言

交通安全の確保は区民共通の願いである。しかし区内では尊い人命を奪うような事故を始め多くの交通事故が発生し、区民生活においても危機感をつのらせている。

練馬区および練馬区民は、持てる力を結集し、交通事故防止のために欠くことができない道路環境を整備するとともに、一人ひとりが交通マナーを高め、交通ルールを守ることを決意した。

練馬区および練馬区民は、生命尊重、人間優先の理念に基づき、交通事故のない安全で安心して暮らせるまちの実現に向けて努力することをここに宣言する。

平成10年12月15日
練馬区

健康都市練馬区宣言

私たちは、家族や地域の人々とのふれあいのなかで、生きがいに満ちた自分らしい生涯を望み、健康であることを願っています。

健康づくりは、私たち自身が日々の生活のなかで、「自分の健康は自分で守り、つくる」ことを自覚し、実践することから始まります。

健康は、私たち一人ひとりの主体的な取組と地域社会の積極的な支援とが一体となって確かなものとなります。

練馬区および練馬区民は、だれもが、自分の生き方に自信と誇りを持ち、生きる喜びをともに分かちあえる、健康と活力あふれるまち、ふるさとねりまの実現をめざします。

練馬区および練馬区民は、健康こそ生活の基盤であり、福祉の原点との認識のもと、みどり豊かな環境のなか、健康づくりのさらなる発展を決意し、ここに健康都市練馬区を宣言します。

平成13年10月8日
練馬区

環境都市練馬区宣言

私たちは、武蔵野の台地に広がった雑木林や農地と調和したみどり水の豊かなまち練馬を誇りにしてきました。しかし、そうしたまちの風景は、次第に失われつつあります。

また、資源とエネルギーを大量に消費する暮らしや事業活動のあり方は、地球温暖化の原因となる温室効果ガスなどの環境負荷を発生させ、地域のみならず地球環境に対して大きな影響を与えるようになってきました。

多くの人々の努力により守られてきた環境資産を大切にしながら、快適で安心して暮らすことのできる環境をつくり、つぎの世代に引き継いでいくことは、今を生きる私たちの責務です。

練馬区に住み、働き、学び、集う私たちは、協力して、「みどりや水と共生する美しいまち」「安全で健康に暮らせる生活環境のまち」「資源やエネルギーを大切に循環のまち」「環境にやさしいところを育み行動の環が広がるまち」を築くことを誓い、ここに環境都市練馬区を宣言します。

平成18年8月1日
練馬区

練馬区の歌 —わが街・練馬—

久野 幸子 作詞
松永 伍一 補作詞
川崎 祥悦 作曲

1. 花と緑につつまれて

わが街・練馬をあるいてごらん

春がきたよと こぶし咲き

梅の香りの漂うなかで

きつと元気が出るでしょう

2. 朝の光に照らされて

わが街・練馬をあるいてごらん

夏がくるよと つつじ咲き

土の香りの漂うなかで

きつと元気が出るでしょう

3. かわいい声に囲まれて

わが街・練馬をあるいてごらん

秋の実りよ 子供たち

虹の七色輝くなかで

きつと元気が出るでしょう

4. 錦の落葉踏みしめて

わが街・練馬をあるいてごらん

冬鳥たちも 飛んできて

地球の明日を夢みるなかで

きつと元気が出るでしょう

練馬区の歌は平成元年10月に制作されました。

歌詞は公募で選ばれ、曲は区内在住の作曲家によって作られました。